

新教育ビジョンの骨子(修正案)

※「○」以下の小さい字体の文言は、それぞれを説明する文章の構成要素の候補として列挙。

キャッチフレーズ 学びを贈りあい、人が育つ杉並の教育(仮)

I 杉並区の教育が尊重すべき価値

◇ つながりを感じ、共に学び、共に生きる

○誰一人取り残さない ○孤独を愛する人も孤立させない

◇ ちがいを認めあい、自らの人生をよりよく生きる

○「みんなちがってみんないい」のではなくて、「みんなちがって当たり前」。比較しない。
○それぞれが自由な尺度で自らよりよく生きていく。

◇ 信頼しあい、誰もが社会のつくり手になる

○誰もが「自分の話」を誰かに聴いてもらえる、受け入れられ、提案され、そして新たな価値を創造する。
○相互承認



II 基本方針・視点 (I に向かうための基本的方向性)

1. 子どもの思いを尊重する

○子どもこそが主役である。○子どもの声を聞き、子どもたちの願いを基本に（真ん中に）しながら好奇心の芽を育てていく。○学習者主体 ○自分なりの探究 ○自分の意見形成力に裏付けされた（あるいはおもんばかられ）自分の意志を反映した活動への参加 ○子どもは強力なパートナーであり、地域の構成員の一人としての意識の醸成。○子どもの意見表明権の尊重、大人が子どもの声に耳を傾ける。・・・など

2. ちがいを認め、高めあう

○全ての人が安心して生きていけるインクルーシブな共生社会の実現に向けて。○不登校や特別な配慮が必要な子どもたちへの支援や学びの保障。○ICTの活用を含む学びの多様化。○多様な人材の生かし合い。○子どもと大人の学び合い。○学校教育と社会教育の融合。・・・など。

3. 対話を大切にして、かかわりあう

○対話的な関係において、好奇心を持って主体的にかかわりながら、お互いに理解、承認関係を作り続けながら新しいものを作り出していく。○共に学び、共にワクワクする関係をつくっていく。○認め合い。○合

意・調整、折り合い。○信頼関係。○一人ひとりが大切な人材という意識。○みんなの力を結集。○人と人とのかかわりあいの中でこそ生まれる役割は人工知能に代替されない。○尊重しあう。・・・など

4. 誰もが社会の当事者として、社会をつくり、担う

○For All から By All へ。Education by All だけではなくて、ある意味で City by All または Community by All へ。○誰もが学ぶこと、学び続けることができる機会を保障、改善していく。○自分たちでまちの課題を解決するため一歩踏み出す。○自分は何ができるのか自分ごととして考えたことを行動に結び付ける。○できるときにできる挑戦を積み重ねる。○学校・地域などの役割は「こうあるべき」を疑い手放す勇気を持つ。○新しい学びへ移行する勇気を持って、AI にできることは任せ、人間にしかできないこと「どうしたら自分の人生を充実させられるか」などを考える。・・・など。

5. 学びを贈りあい、学びを通して人がつながる

○学校で人がつながる。○「かかわり」と「つながり」の学びを重ね関係をつくる。○学校を「地域の学びのプラットフォーム」「地域コミュニティ」の場に変えることで学びの社会へ。○誰もが価値を創造し続ける社会になる。○地域との触れ合いのなかで学びの機会を作っていく、学びのフィールドが地域社会に。○地域の人材を生かし学びの環境を豊かに。○学び合いの促進。○学校＝学びの循環装置・創出装置 ○学びの循環がまちづくりにつながる。○意識的に面をつなげる。○よりよくしようと創意工夫をしあう。○幸せを高める学びは社会とのつながりを実感したとき。○学びの成果が活用され、心豊かに暮らせるまちとなる。○学び直す喜び、ワクワクする学び。○「ありがとう」をフィードバックできる仕組みを作り、モチベーションを上げる。○誰もが学ぶこと、学び続けることができる機会を保障、改善していく。・・・など。



Ⅲ以下は、教育ビジョン推進計画へ

Ⅲ “ミッション”

杉並区教育委員会は、区民誰もが社会の当事者として、社会をつくり、担う主役であることを基本として、子どもも大人も対話的な関係をつくり、違いを認めあい、新しい価値をつくりあい、子どもたち自身がこの社会の主役として尊重される社会をつくるための、「学び」の環境整備に努める」など。

Ⅳ 施策の方向性(施策テーマ)

ビジョンの理念を実現するため、学校(園)、地域、家庭が、それぞれの役割を果たすことができるよう「教育行政」が行う(支援する)施策の方向性。点検評価「4領域(学び、人材と組織、施設・設備、行財政)」を意識して設定。

以下、主な取組、計画事業等・・・。